

令和元年度 第1回南箕輪村地域公共交通会議 会議録

日時：令和元年5月24日（金）

午後1時30分から

午後2時35分まで

場所：南箕輪村役場2階 講堂

出席者数：委員20名中17名

欠席委員：白川委員、山田委員、清水委員

【進行 地域づくり推進課長】

（委 嘱）前年度からの委員以外は、前任者の残任期間を委嘱する。

任期については、令和2年3月31日まで。

1 開 会（地域づくり推進課長）

2 あいさつ（会長：村長）

改めまして、皆さんこんにちは。今日は大変お忙しい中、地域公共交通会議に御出席いただきましてありがとうございます。日頃から、本村の公共システムを始めとする行財政運営に御理解と御協力をいただき、厚く御礼を申し上げる次第です。本村の行財政運営の指針であります南箕輪村第5次総合計画では、住みやすい環境づくりを進める村の一つとして、地域公共交通会議の意見を踏まえて、生活の足を確保する交通手段として村内巡回バス「まっくんバス」の運行を基本としながら、路線バス等を含めた利便性の高い交通システムを整備するとしています。今、本当に高齢社会を迎えてきているところであります。いろいろな報道の中で、高齢者の交通事故が多くなってきておりまして、免許返納者がかなり増えてきているというような報道もなされているところでございます。そういった中で、地域の住民の足をどう確保していくのか、このことが行政に課せられた一つの大きな課題であるというふうに捉えているところであります。この課題解決に向けまして、こういった会議を開催しながら皆さんの意見を踏まえて、より良い方向へ持っていかれたらと思っているところでございます。

さて、このまっくんバスにつきましては、これまでも利便性や安全性の向上のため、バス停の新設やルートの変更、定期券の拡充、昨年4月からは75歳以上の運賃無料化などの改善を図ってきているところであります。また、平成15

年より運行してまいりました、1台目のバスも予定どおり本年3月に更新をすることができ、4月よりノンステップ型小型バス2台体制で運行をさせていただいております。今日は令和元年度第1回目の会議となりますが、まっくんバス、伊那地域定住自立圏の行政区域間縦断路線バス「伊那本線」、西箕輪線等利便性の高い交通システムの充実支援を行ってまいりたいと考えておりますので、委員の皆さま方には大変お世話になりますが、それぞれのお立場で御意見を賜りますようお願いを申し上げまして挨拶とさせていただきます。

3 自己紹介

4 副会長の指名 会長による指名。

区長会長の神子柴区長 丸山和敏委員を指名

(丸山副会長)

区長会を代表して、副会長ということで4月に区長になって慌しく4月5月と過ごしているところでありますけれども、この公共交通会議の資料をあらかじめ送付いただきまして、若干目を通しますと、本当に一人ひとり各家庭に自家用車がある中で、公共交通の運営がなかなか厳しい状況にあらうかと、村の負担も年々増えているように見受けられました。そういうことを考えますと、そうはいつても高齢化社会がますます進んでいく状況でありますので、できる限り利便性の高い公共交通が南箕輪では実現するようにしていければいいなと思っております。不慣れですがよろしくお願いいたします。

5 協議事項（進行：会長）

(1) 南箕輪村巡回バス「まっくんバス」の運行状況及び利用促進について (資料に基づき、事務局説明)

平成30年度の利用者は年間13,479人で前年比105%

75歳以上の高齢者の運賃を無料としたことや無料乗り放題デーの実施で利用者数が伸びたと考えています。利用者の半数程度が、75歳以上の高齢者の方であると推定しています。

(会長)

まっくんバスの運行状況についてご説明申し上げました。第1回ということで、過去の経過から現在の状況、改定等の状況などを御説明申し上げたところであります。バス運行につきましては、副会長さんの挨拶の中でもありましたが、多額の赤字ということで、これはやむを得ないというふうに思っております。

す。80%が特別交付税で措置をされているということで、これがどの程度続くかということ、続くことを願っているんですけども、これが打ち切られると大変だなという状況であります。当面は、こういうことでいくんだろうと思っております。利用者も昨年より若干伸びてきて、いかに利用者数を伸ばしていくかという、このことに尽きると思っております。(1)につきまして何か、御質問、御意見などありましたらお願いいたします。

(松澤委員)

これから免許返納とか、どんどん増えてくると思います。今、このまっくんバスの利用状況を見ると、大芝高原とか中央病院とかに限られているが、実際にはお年寄りが必要なのは兼子医院に行きたい、小口整形に行きたいとか、箕輪の芦澤整形行きたいとか、そういうようないろんな病院に行きたいというのが多々あるところですよ。買物にも行きたいと。まっくんバスで約4,000万円の赤字を出しているのであれば、伊那バスさんで運行をやってもらっているならば、極端な話、軽自動車3台用意して役場に待機して、村民の中で登録した人がどこに行きたいと言ったら、家まで迎えに行行って届けてあげる。1回200円なり300円なり負担をいただいて、そういったやり方をした方が、利用価値がものすごく出てくるのではないかと。今、まっくんバスの回るところに病院がなかったらちょっと使えないな、他の人を頼まなければならないということになる。それならば、村で伊那バスさんとタイアップして、人件費などを払っていけばそんなに費用がかからなくてもいけるんじゃないかと。そういう方法も今後、免許返納が増えていくにあたっては、考えていく方法ではないかと思えます。

(事務局)

御意見、ありがとうございます。委員さんがおっしゃるようにデマンドといいますか、予約を受け付けて、タクシー等を動かすということを検討した経過もありました。結果現在に至るわけですが、お隣の伊那市さんでもタクシーのA1配車ですとかいろいろとやり始めているところですが、経費も意外にかかるということも聞いております。これまでの検討の中でも、デマンドに変えればすべてがうまくいくということではありませんでしたので、現在に至るわけですが、時代も変わっていますので、いろいろな意見を聞く中で、まっくんバスもいずれはもう1台も更新時期を迎えますし、そういったことも考えていかなければならないと考えています。

(松澤委員)

やり方だと思います。タクシーをそのまま使うということではなくて、例えば、伊那バスさんから人材を派遣してもらって、それに対する給料を払う。極端な話、村に住んでいる現役を退いた人がやってもいいんだけれども、事故だとかいろいろな問題が起きたときに、2種免許を持っている人の方が運転がうまいという状況であれば、人件費だけだからそんなにかからない。タクシー代を払うという感覚ではない。伊那バスから3人派遣いただきますと。その人たちにひとり月額70万伊那バスへ払います。伊那バスはそこから人件費を払う。車も3台軽自動車を村が用意します。それでまわせれば1か月210万、年間2,600万か700万、ちょっと多めにみても3,000万くらいで収めれば、お年寄りたちは、自分で行きたいところに300円払おうが500円払おうが、行きたいところに行ける、そういうやり方のほうが利用価値が上がってくるのではないかと思います。

(会長)

御意見ありがとうございました。そういった検討もこれからはしていかなければならないと思いますし、デマンドでやっているところもあるわけであります。ただ、お聞きをしますと経費的にはかかるようであります。というのは、人件費はもちろんです、自動車を用意したり燃料代を用意したり、電話の受付のシステムも組んでいかなければいけない、そこに人もいります。同時に、一番の悩みは、まっくんバスを運行していただいている伊那バスさんの人手不足、運転手不足という状況であります。現在の状況はそういう状況であります。いずれそういった部分の検討も必要だと思っております。今の運行システムでいきますと、どうしても不便なところが出てきております。時間的にもかかる、行きたいところも特定のところしかない。伊那本線が動き出しましたので、箕輪の芦澤医院だとか、伊那市内へ行くだとか、かなり利便性は高くなっていますけれども、ただそれをどうまっくんバスと連携させていくのかという課題もあります。本当に高齢者の足の問題は難しいというのが実態であります。何とかやっていかなければなりませんし、今、そういう皆さんにつきましては村が社協に委託しまして、移送サービスというものもやっております。登録して、保険代を払ってもらいまして、月に3回利用できます。医者あるいは、買い物について送り迎えができます。かなり登録者も増えてきておりますので、そういったいろいろなことを組み合わせていかなければ高齢者の足の確保は難しいと考えているところであります。今の御意見も貴重な御意見であり

ますので、検討した経過はありますけれども、さらにこれから検討していく必要はあると思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(その他、質疑なし)

(2) 伊那地域定住自立圏における行政区域間縦断路線バス「伊那本線」について
(資料に基づき、事務局説明)

平成 30 年度の利用者は年間 20,319 人。平成 29 年の運行開始から徐々に利用者が増えてきている状況です。1 便あたりの利用者も平成 29 年度の 3.34 人から、平成 30 年度は 4.95 人となっています。

(会長)

伊那本線につきまして、説明を申し上げました。この事業は定住自立圏の中でやっております、本村の場合は他の事業と合わせまして 1,500 万円の中でやっておりますので、全額が特別交付税で賄っております。伊那本線その他、子育て関係、病児病後児保育等の事業をしているところであります。この路線につきましては、利用者も増えてきていますのでさらに乗るような方策も考えていかなければと思っているところであります。

(質疑なし)

(3) 伊那市バス路線（旧伊那バス路線）「西箕輪線」の運行について
(資料に基づき、事務局説明)

平成 30 年度まで伊那バスの独自路線であった西箕輪線について、平成 31 年 4 月から伊那市地域公共交通協議会が運行する路線となり、村内運行分（3 km）については、村から伊那市協議会へ負担金を支払います。

(会長)

西箕輪線につきましては、伊那市の協議会の路線となり、伊那市が運行しておりますが、南箕輪村の地籍を通りますので、南箕輪村は負担金を払うということで昨年の地域公共交通会議の中で、伊那市と一緒にやっていくということで決定をしていただきました。この路線はかなり利用者がいますので、運行する効果はあるのかなというふうに思っているところであります。

(酒井委員)

以前から、南原の高校生を持つ親から伊那市駅に行けるスクールバスなどを出してくれないかという要望があったものですから、朝晩1便くらい361号線を回って南原を通してもらえれば、今、スクールバスの状況を見ても大勢いますので、高校に通ったりするので、なんとか通学の便を図って欲しいという希望なんですが、伊那市が運営しているので難しいとは思いますが。

(会長)

以前から、南原地区の高校生を持つ保護者の皆さんからはそうした要望をいただいております。ただ、この路線でそれをやるというのは無理であります。その問題を検討するには村独自の部分で考えていかなければなりません。南原の部分だけというわけにはいきませんので、大泉や北原の皆さんからもいろいろな御意見が出るだろうと思います。そんなことも踏まえてということでもありますけれども、高校生になれば何とか自分で行っていただきたいというのが村の考え方であり、そんな話は以前もさせていただいたところでもあります。そういう要望があるということは承知しております。

(その他、質疑なし)

(4) 地区からの公共交通への要望について

(要望書を各地区委員へ配布し、事務局説明)

9月を目処に、地区からの要望を取りまとめます。

地区計画等の取りまとめの時期と合わせておりますのでよろしくお願いいたします。

(会長)

各地区から御要望がありましたら、期限までに提出をいただきたいと思います。説明を申し上げましたが、前向きな部分、削ってもいいよという部分もありましたらぜひお願いをしたいと思います。バス停を一つ増やすと時間が延びます。まっくんバスは時間がかかりすぎるという御意見もいただきます。ただ、どう回っても難しい部分があります。伊那バスさんにも大変御苦労いただいて今の時刻表ができています。新たな路線を加えるという要望もあろうかと思いますが、そういった要望がありましたら、こちらでも十分検討しながら話をさせていただきたいと思います。

(その他、質疑なし)

(5) その他

なし

6 その他

(事務局)

- ・ 出席手当て口座の確認
- ・ 次回会議は 11 月頃の予定

7 閉 会 (丸山副会長)